



固定型RFIDリーダー用IoT Connector

クラウド接続デバイスから得た情報に基づく判断

現在、企業が導入するクラウド対応エッジデバイスは増え続けていますが、リアルタイムの意思決定にどうしても必要な情報とインサイトを取得するために、それらのデバイスからデータを収集する一貫した単純な方法がまだにありません。この大きくなる一方の要求に対応するため、Zebraではバーコードスキャナと固定型RFIDリーダーのポートフォリオにおける標準機能として、IoT Connectorを開発しました。IoT Connectorは完全に自動化されたリアルタイムデータ収集ツールであり、得られたデータを分析して対処することにより、企業を活性化してZebraの固定型RFIDリーダーを最大限に活用できるようにします。

データに基づくインサイト

クラウドの統合が容易

IoT Connectorは、Zebraの固定型RFIDリーダーから選択されたIoTエンドポイント（クラウドのデータレイク、ローカルなログファイル、ネットワークの共有フォルダー）へデータを転送します。

エンタープライズ向けデータ収集

IoT Connectorにより、分析ダッシュボードがリアルタイムアラート、稼働状況に関する統計情報、RFIDタグ表示、資産情報など、Zebraの固定型RFIDリーダー群から得た重要な情報にアクセスできるようになります。情報はすべて場所と日時のスタンプが付いています。

動作モード

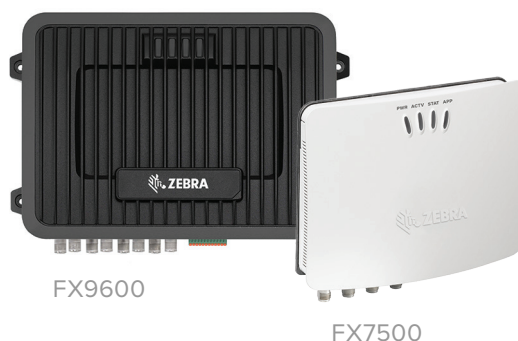
所定の動作モードにより、購入時の状態で、一般的な用途に合わせてRFIDリーダーを迅速かつ容易に設定できます。または、上級ユーザーであれば、固有のニーズに合わせてカスタマイズできます。

既製のツール

IoT ConnectorによってZebraの固定型RFIDリーダーを容易に設定できます。コーディングは不要です。収集するデータの種類、収集頻度、データの送信先を指定するだけで、あとはすべてIoT Connectorが引き受けます。

標準のプロトコル

複雑なカスタムコードのアプリケーションに代わるものとして、IoT Connectorをご利用いただくと、REST API、MQTTといったウェブと相性の良い最新プロトコルで、Zebraデバイスの管理と制御を簡素化できます。



エッジで分析

リーダーでは処理能力が大きくて高機能なLinux OSを利用できるので、IoT Connectorはデバイスのより高度な分析に対応する、スクリプトベースのアプリケーションを実行するためのフレームワークを提供し、ユーザーがエッジでリアルタイムに判断できるようにします。

リアルタイムの可視化

IoT ConnectorはZebraの固定型RFIDリーダーを可視化し、デバイスの稼働状況とリアルタイムアラートを監視するので、分析して対処し、データに基づく判断ができます。

市場と用途

- ・小売
- ・医療
- ・倉庫業
- ・運輸／物流
- ・製造

主な特徴

- ・リアルタイムアラート
- ・稼働状況に関する統計情報
- ・RFIDタグの表示
- ・資産情報
- ・場所と日時のスタンプ



IoT CONNECTOR

IoT ConnectorによってZebraの固定型RFIDリーダーからアクションにつながる重要なインサイトを取得しましょう。
詳細についてはwww.zebra.com/IoTConnectorをご覧ください。